

「リニアを見据えたまちづくり、コンテンツを考える」

—リニア開通までにやらなければならないことは何か—

Localization Planner 高橋 寛治

1、はじめに

- ①松澤さんから学んだこと。
- ②僕は「問題児枠」の生き方をしてきました。分かっていることは「変なことをする人を採用しておくこと」がシステムとしては安全なんです。みんなと違う視点から、みんなと違う射程でものをとらえ、みんなと違う基準で良否を判断する。このような人が一定数いないと組織はまずいんです。

2、戦後の私たちの選択の誤り・・・

- ①「ムラ」を「マチ」と同じにしよう。同じ利便性を持ち込もうとしたこと。
- ②なぜ「ムラを強く安心して生活できるところ」にしなかったのでしょうか。

2、「企業誘致」「Iターン」「観光」「交通環境の整備」は国主導の「あなた任せ」です。

- ①結局、過疎からの脱出を「外からの何か」に依存したのが間違えの始まりではないでしょうか。企業を誘致する、出産可能な年代に来ていただく、特産品を全国の方に食べていただく、そして観光客に来ていただく。「日和見」であり「あなた任せ」。むずかしく言えば「外発的」だと思うのです。
- ②全ての答えは「内発的」に発展することです。(時間があれば細部を補足します)
間違えないことは「簡単に構築できる再生策は、簡単に壊れる」。
分かりやすい論理では地域は自立できないと思うのです。

3、可能性は。

- ①若い人の中に見られる「独自の論理と実践」。
- ②経済的価値から、「社会システムの元気さ」「地域住民の自発性」等の社会的価値へ変換。

4、小さいことは問題ではありません。

- ①山村では「小さいことの価値」に出会えます。②山村では高齢化のピークは終わっています。

5、日本全体で進む「コストの外部化」

- ①すこし角度を変えて考えてみませんか？「教育」から考えてみたいのです。
- ②90年代前まで、大学は教養課程を含めた「素材」の育成を担い、「戦力」の育成は企業が受け持っていました。いま「グローバル人材」と言われるようになり、大学では文系が削減され理系が優勢。「明日から即使える状態で納品しろ」と変わってきました。これは「企業の内部で人材育成コストを出したくない」ということです。
- ③企業にとって都合の良い人材育成を「授業料と税金でおこなえ」=これを「コストの外部化」と言います。
- ④全てのことが「外部化」されてきました。*非正規雇用の推進*最低賃金制の撤廃*残業ゼロの合法化。

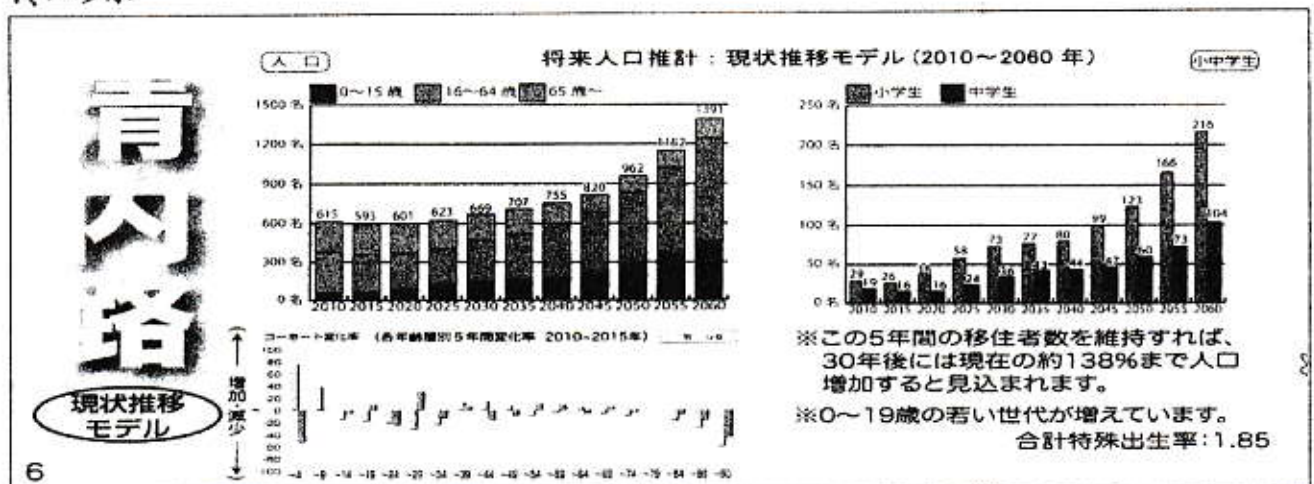
↓
(注)

- ⑤その延長線に高速道路の整備や新しい鉄道の敷設があり、これは「運輸コスト」の外部化です。
- ⑥リニアは「運輸コスト」の外部化＝企業のための整備なのです。

6、飯田にとって「発展」とは何でしょうか？

- ①まず、「リニア」と「三遠南信」は「あなたのみ」の代表です。これでは自ら「何が出来るか」という心が無くなり、このインフラが出来れば「飯田は良くなる」という誤解を生みます。後から続いてくる子どもたちのために、私たちはどのような社会を残してゆけばよいのでしょうか。それが今問われています。
- ②すでに山村では20年後の「ムラの姿」を自らの力で作っています。そこでは人口が伸びています。
- ③「企業」も「観光客」も「特産品」もない山村で人口が伸び、インフラ整備に汗を流す飯田市は、なぜ30年後に人口が3/4になってしまうのでしょうか・・・？なぜ、だれも疑問を感じないのでしょうか。
- ④なぜ経済にこだわるのでしょうか。「市場」、「需要」とか「消費動向」に実態はあるのでしょうか？
 実は、これらは実態が無い物の際たるものではないかと思うのです。
 最も身近な「貨幣」を考えれば理解いただけると思います。貨幣の価値＝その根拠は「それが貨幣として通用している」という事実以外にはないと思いませんか・・・？そのうえ貨幣が通用するのは「未来永劫に貨幣として通用し続ける」という幻想を、皆が信じているという以外にないと思うのです。
- ⑤その時に40歳以下の若い人達に学ぶことがたくさんあると思えてなりません。しっかり地に足をつけて生きようとしている。それより上になると頭で概念をこねまわして現実がみえなくなっていると感じます。ネットの情報などを直ぐ信じて「世の中はこうなるんだ・・・」と目新しいものに飛びつく。若い人と話していると、これからの社会が今より豊かになると期待していないと思います。残された有限な資源をどうやって皆でシェアし、効率的に使いまわしてゆくかということに知恵を使っています。
- ⑥僕にはこの「共生の原理」が分かる気がします。出来るだけ同一のものに欲望を集中しない生き方です。

7、パワポ



8、まとめ

未来は私たちの「精神の習慣」（ある時代の行動を決定する倫理や精神）が全てを決めてゆきます。

「民主政治の下の社会では、誰でもが同じような精神の習慣を持つようになって、少数意見は社会から排除・攻撃を受ける。今日的な表現を使えば、『精神のファシズム』とでもいうべき社会が作られししまうことへの危惧です。市民の精神が均一のものになり、制度としては民主的はずなのに、そこで生まれる社会は、「一つの精神が支配する地域になってしまう・・・」。いま思うのはこの危惧です。